

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：21301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23593383

研究課題名(和文) 中一ギャップ支援のための縦横的ヘルスケアシステムの先駆モデル開発

研究課題名(英文) Pioneering model development for vertical and horizontal healthcare system supporting transition to junior high school: the chuichi gap

研究代表者

鹿野 裕美 (SHIKANO, HIROMI)

宮城大学・看護学部・准教授

研究者番号：40510631

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：中一ギャップの支援については、小中連携や保護者との交流など、ヘルスケアシステムの活動が具現化されていた。養護教諭は生徒の心身の健康支援として、学校や地域の特徴、生徒の実態を把握するとともに、課題を明確に掲げ、解決に取り組んでいた。中一ギャップの予防としては、生徒に対する健康教育の推進が課題となる。本研究では中一ギャップの健康教育資料として、中学1年生を対象とした「中学校げんき生活ガイド」の作成と配布を行った。また入学前の生徒に対する健康教育も必要であることから、リーフレットを入学準備用に改訂し、最終的に中学校の入学を控えた児童生徒を対象に「改訂版～中学校げんき生活ガイド」を配布した。

研究成果の概要(英文)：To support the “chuichi gap,” healthcare system activities have been conducted such as parent-teacher exchanges and cooperation between elementary schools and junior high schools. Yogo teachers have clarified several problems and have strived to solve them in light of features and characteristics of their own school districts, schools, and students. Promotion of student health education is the key to preventing the “chuichi gap.” This study made and distributed “Chugakko Genki Seikatsu Guide” to target first year students in junior high schools as a health education material for the “chuichi gap.” In addition, because health education for pre-junior high school students is necessary, we revised the leaflet into a guide for preparation to enter a junior high school, as the “Revised Chugakko Genki Seikatsu Guide,” and finally distributed the guides to pre-junior high school students.

研究分野：養護学

キーワード：中一ギャップ 養護教諭 ヘルスケア アクションリサーチ

1. 研究開始当初の背景

今日、学校教育の喫緊の課題として「中一ギャップ」の問題が指摘されている。「中一ギャップ」とは、中学校に入学した生徒が、小学校から中学校の環境の変化に対し大きな段差(ギャップ)を感じ、中学校生活にスムーズに適應できないという問題である。実際、中学校の保健室には、入学式直後から新しい環境に適應できず、心身の状態が不安定になり、体調不良を訴える生徒たちが多数来室している。このような状況下、養護教諭はいち早く中学校入学後の不適應症状を呈した生徒のサインを受け取ることができ、またいち早くその支援を開始できる立場にある。

養護教諭は、中一ギャップの生徒に対し、とりわけ心身の不調について、専門性を活かしたヘルスアセスメントおよびヘルスケアを展開させ、支援につなげることが重要である。また、小学校と中学校の「縦の連携」、および教職員・保護者との「横の連携」を推進していくことも求められる。このように中一ギャップ支援においては、生徒の心身の健康にかかる縦横的なケアシステムの構築が求められるとともに、これらのヘルスケアシステムを有機的に機能させることが非常に重要な課題となっている。

2. 研究の目的

本研究は、中一ギャップ生徒支援のための、ヘルスケアシステムモデルの開発を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

以下、三段階の研究を実施した。

(1) 研究1

中一ギャップ支援に向けた、ヘルスケアシステムの実践状況を明らかにすることを目的とし、2012年12月、A県2市1町の中学校に勤務する養護教諭9名を対象として、グ

ループインタビューを実施した。

(2) 研究2

中一ギャップの支援プロセスを解明するとともに、ヘルスケアモデル構築に向けた具体的検討を行うことを目的とし、2013年4月～2014年3月まで、X県A・B・C中学校、計3校の養護教諭によるアクションリサーチを実施し、支援プロセスの実際と今後の課題について明らかにした。

(3) 研究3

これまでの研究成果をまとめ、中学校1年生の生徒を対象とした健康教育リーフレット「中学校げんき生活ガイド」を作成した。またアクションリサーチ協力校A、B、C中学校3校の1年生にリーフレットを配布した。あわせて、中学校1年生の心身の実態を明らかにすることを目的とし、2014年7月、質問紙調査「こころとからだ元気生活アンケート」を実施した。

4. 研究成果

(1) 研究1：グループインタビューの結果から、ヘルスケアシステムの実態について、以下の三点について明らかになった。

中学一年生の状況として、中学校のいいところ発見と適應 中学校生活の戸惑いとその表出 という二極の状態を呈していた。中学校教員は 中学校一年生の問題への対応 を行う一方、教員が求める「中学生」に対して葛藤を抱えていた。

小中連携として 中学校の事前見学と体験学習 保護者との情報の共有化 小中をつなぐ専門職との連携 中1生徒への特別なサポート体制 学校区としての交流活動 などが機能し、既に学校区のヘルスケアシステムとしての活動が具現化され実施されていることが明らかになった。

今後の課題として、生徒のコミュニケーション力を向上させるため、生徒間関係を育てる教育 等の健康教育を推進し、生徒の

「仲間力」を向上させることも重要であり、生徒たちがヘルスケアシステムの一翼を担う可能性について示唆された。

(2) 研究2：アクションリサーチの結果から、中一ギャップ支援にあたり、養護教諭は各学校や地域の特徴、生徒の実態を把握し、課題を明確に掲げ、解決のため教職員と協働した支援に取り組んでいることが明らかになった。

A校では、中一のけがが多いという課題が挙げられ、学校安全について重点的に指導するという対応が行われていた。B校では、「小さな問題もすぐに解決」をスローガンとし、教職員が一体となり教育活動を展開するとともに、中学校入学後は、保護者連携と保護者支援に力を入れていた。C校では、課題となった生徒のコミュニケーション力の向上にむけて、生徒の心身の状態を把握するための実態調査を行い、結果については学校保健委員会でも報告するなど、課題解決のための実践を組織的に積み重ねていた。また養護教諭はアクションリサーチ後、<こういうきっかけがあったから、気をめぐらして子どもたちを見ることができた。調査までいけたので、これからこうしていこうという道筋も見えてきた>と自らの実践を振り返るに至った。アクションリサーチにより、自らの専門性の自律と発展に関する振り返りも可能であること、また絶えず発展する支援方法の開発にむけた貴重な示唆も得られた。

(3) 研究3：中学校1年生の心身の実態を明らかにすることを目的とした質問紙調査の結果(N=309)から、中学入学後に学習の生活の変化に戸惑いを感じている生徒が、全体の54.2%を占めることが明らかになった。健康教育リーフレット「中学校げんき生活ガイド」を作成したところ役に立ったと回答した生徒は58.2%であった。

(4) 以上の結果より、中一ギャップの支援については、既に学区のヘルスケアシステムとしての連携活動が具現化され、既に様々な交流活動が実施されていることが明らかになった。養護教諭も、各学校や地域の特徴、生徒の実態を把握するとともに、課題を明確に掲げ、解決のために教職員や保護者と協働した支援に取り組んでいることが明らかになった。

一方、中一ギャップの予防にあたっては、健康教育を推進し、コミュニケーション能力の向上を図り、生徒同士の「仲間力」を向上させることも重要である。生徒たち自身が自らのヘルスケアシステムの一翼を担う可能性についても示唆された。

本研究においては、健康教育資料として、中学1年生を対象とした「中学校げんき生活ガイド」の作成および配布を行った。しかし中一ギャップの予防には、入学前の健康教育も必要と考えられ、リーフレットを「中学入学準備用」に改訂し、最終的に平成2015年3月、協力が得られた中学校9校の入学予定約1300人の生徒を対象として、改訂版健康教育リーフレット「中学校げんき生活ガイド」を配布した。

5. 主な発表論文等

[学会発表](計2件)

鹿野 裕美 山田 嘉明 関戸 好子、桂 晶子、伊藤 常久、佐々木 奈緒、アクションリサーチによる中一ギャップ支援プロセスの解明、日本健康相談活動学会第11回学術集会、2015.2.28~3.1 愛知学院大学(愛知県・名古屋市)

鹿野 裕美 桂 晶子 山田 嘉明 関戸 好子、中一ギャップ支援のためのヘルスケアシステムの実践的展開、第22回日本健康教育学会学術集会、2013.06.千葉大学(千葉県・千葉市)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

鹿野 裕美 (SHIKANO, Hiromi)

宮城大学・看護学部・准教授

研究者番号：40510631

(2)研究分担者

関戸 好子 (SEKITO, Yoshiko)

千葉科学大学・看護学部・教授

研究者番号：80216530

山田 嘉明 (YAMADA, Yoshiaki)

宮城大学・看護学部・教授

研究者番号：80200757

桂 晶子 (KATSURA, Syouko)

宮城大学・看護学部・准教授

研究者番号：00272063

伊藤 常久 (ITO, Tsunehisa)

東北生活文化大学短期大学部・生活文化学
科・准教授 研究者番号：10289738